

“まんざらでもない自分”

●就職はしたけれど……。

特別支援学校高等部では、将来の就職を意識したワークキャリア教育に重点がおかれています。その成果として就職率も上がっています。しかし、せっかく一般企業・福祉的就労しても人間関係で職場になじめず継続して働き続けられない人も少なくありません。それは、本人が社会の中の自分の立ち位置や役割がわからなくなって、自己を見失い精神的に危機状態に陥っていると思われる。

●自分づくりがとっても大切！

どんなに障がいが高くても全ての人に青年期はおとずれます。青年期は第2の誕生といわれ、青年期以降を生きていくための誕生で、青年期に自分づくりがとっても大切です。

同年代の仲間なかで、素の自分を出し、受け止められ、仲間なかで折り合いをつけ、自分の存在が認められることが重要なのです。そこで生まれるのは青年の心の心に「いけてる自分」です。

それを実践しているのが、教育年限を延長した福祉型専攻科「ぽぽろスクエア」なのです。

小畑耕作(大和大学教育学部)

<1年生>

- 5月
 - ・地元の相談支援事業所を学生とスタッフで訪問します。
- 12月
 - ・学生と懇談し、進路についての希望を聞きます。
- 1月
 - ・保護者面談で、保護者の思いを聞き、学生の思いを伝えます。

<2年生>

- 5月
 - ・学生と懇談し、希望する作業所、会社、学校などをあげます。
- 6月
 - ・保護者面談等で、見学(学生・保護者)・実習先、日程を調整します。
- 7月
 - ・進路先体験学習(実習)
- 9~10月
 - ・進路先の決定(ずれることもあります)

進路支援はご家族と相談しながら、ぽぽろスクエアが責任をもって行います。

進路支援のしおり

2019年度

